

今週のみことば	「ユダヤ人の王としてお生まれになった方を、拝みに来ました」 (イザヤ書 11 章 1～10 節) 「その上に、主の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、はかりごとと能力の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。」(11:2) (マタイの福音書 2 章 1 節～12 節) 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。私たちはその方の星が昇るのを見たので、礼拝するために来ました。」(2:2)
---------	--

今日 の メ ッ セ ー ジ 要 旨

◎三人の博士たちは遠路「ユダヤ人の王としてお生まれになった」イエス様を礼拝するためにはるばる旅を続けたのです。礼拝する者の態度を教えられたい。

◎イザヤ書11章は「メシヤ来臨の預言」です。エッサイはダビデの父で(サムエル記①16章)、「新芽が生え」はダビデ家に新しい王が来ることを暗示し、メシヤ(キリスト)を明示しています。ダビデの上に主の霊が降ったように(同13)、新しい王の上にも「主の霊がとどまる」。それは「知恵と悟りの霊、はかりごとと能力の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である」。即ち、正しい裁きを行う力と(列王①3章)、政治や軍事を指導する力を備えられ、最も大切な「主を恐れることは知識の初め」(箴言1:8)であり、「わが神、わたしはみこころを行うことを喜び」(詩篇40:8)とすご生涯なのです。その王は「目の見るところによってさばかず、その耳の聞くところによって判決を下さず」「正義」と「公正」をもって寄る辺のない者を裁き、貧しい者のために判決を下される御方です。終末には新しい王の支配による平和が成就し、人間、家畜、野獣との共存の形で、絶対的平和が来るのです(イザヤ65:25)。肉食獣も草食となり、大洪水以前の状態にです(創世記1:28～30, 9:2～3)。主を知ることが平和の源であり、終末の日にすべての民が新しい王の許に集められ、神の栄光が輝くのです。

◎マタイの福音書2章の前半の主題は「博士たちの来訪」です。ヘロデ王の時代(BC37-AD4)、東方の博士(バビロニア周辺の占星学者)たちが「イエス・キリストの降誕」の事実を星の出現によって知らされ、その星に導かれてエルサレムまで旅を続け、その在処を知り「黄金、乳香、没薬」をささげて礼拝を捧げた後、彼らは別の道を通して帰国したのです。

◎「ヘロデ王」(1)はローマ元老員からユダヤ王に任ぜられ、エルサレム神殿の再建に着手し、「ヘロデ大王」と呼ばれたのです。しかし、その家系は純粋なユダヤ人ではなく、エドム人(エサウの子孫、創世記25:30)であったのです。それ故、「ユダヤ人の王としてお生まれになった」(2)イエス様を恐れたのです。ベツレヘム(1、パンの家、創世記35:19, ヨハネ7:41-42)はエルサレムの南8キロにある町で、ダビデの生地、ダビデの町とも呼ばれたのです(ルカ2:11)。

◎ヘロデは、救い主が来られたという知らせに「動揺した」した。同様に「人々」も動揺したのです。人は自分の立場を脅かされると思うと恐れる。ヘロデは猜疑心の強い人物で、心に疑いが起こると側近と言わず妻や子どももことごとく殺した。そんな人物にとって新たな「ユダヤ人の王」の誕生はまさに脅威で、この幼子を亡き者にしなければと計り、「ベツレヘムとその周辺一帯に住む二歳以下の幼子を皆殺させた」のです(16)。

◎博士たちは星に導かれた。「あなたのみことばはわが足のともしび、私の道の光です」(詩篇119:105)。②「ユダヤ人の王」(2)の言葉は、主イエス様の十字架の罪状書(27:29, 37)と同じ。東方の博士たちは幼子イエスを拝み、「宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた」(11)。彼らは王にささげるにふさわしい贈り物をささげたのです。それは「キリストの神聖・聖性・死」を示すとも言われる。これらはエジプト逃避の時、家族の経済的な支えになったのです。

◎私たちも真の救い主に出会うことによって、新しい歩みに導かれるのです。真心から主イエス様を礼拝する者でありたい。